



9月お彼岸を過ぎ、ようやく涼しさを空気に感じられる日が来ました。グリラ参観詐欺のような1週間。申し訳ございませんでした。気温が下がればグリラ参観も、運動会も行ないます。ぜひお時間を作ってお越しください。

臼井幼稚園には色んなお子さんが在籍しています。特別に支援の必要なお子さんが年々増えているのは、当園のことばかりでなく、他園の園長先生方もそうおっしゃっています。そしてここ10年くらいのことで、クラスがなかなかまとまらない、というも頭を傾げて何故だろう？と不安視しているところです。

幼稚園の設置基準の第三条において、「1学級の幼児数は、35人以下を原則とする」と定められていて、臼井幼稚園については昨今30名を下回る人数です。さらに特別支援のお子さんのサポートのために各クラス最低1人は支援の先生が入っています。

先生がクラスの全員に話をしている時、「僕はね、」、「私は、」と自分の話を始めてしまい、担任が話したくても進まないことがあるのです。その子に悪気はなく、先生との1対1の関係を求めてくるのです。でも、担任が話そうとしているのに「僕ね、」と始まったらどうでしょう。困った子、気になる子、とのレッテルを貼られてしまうこともあります。

どうしてこの子はこのタイミングで「先生、先生」と求めたのでしょうか。この答えとも言えるものを上原文先生の文章に見つけられたので、保護者の皆さまにも関係のあることですので、そのまま記載させていただきます。

以下、上野先生の文章より

人間はもともと「集団の中でつながり合って生きる動物」です。けれど他の動物とは違い、人間は、集団に入る前の段階がとても重要です。この段階で「個・自我の安定」を得ることが必要不可欠で、これがないと、集団にうまく入っていくことができません。

「ありのままを受け入れてもらえる」

この受容があってこそ、心の奥底が安定します。記憶に残らないこの時期の対応が人間の一生を決めると言っても過言ではないのです。～中略～心の安定を得られないまま成長してしまった結果、様々な問題が起きてしまっている気がしてなりません。

女性の社会進出とともに、子どもを小さいうちから保育園などに預け、集団の中で育てる傾向があります。これはみなさんのせいではなく、社会の構造が、母となった女性も働かなくては生活していけない社会構造に問題があると私は思います。そしてもうひとつは、スマホです。赤ちゃんにお乳をあげながらスマホをいじったり、子どもに話しかけられているのに、上の空で返事をしたり、「あとで」「待って」と子どもが次の次になってしまう。

心も成長していくものです。そこを踏み外すと、次の段階に進めず、あとあとまで影響するそうです。目の前のお子さんの情緒の成長と安定のための「受容」を、ご両親も、私たち保育者もしっかりとしていく必要があると感じています。

子どもは、自分だけが受容されたいのです。「先生（パパ、ママ）が僕を見てくれている」という安心感は気持ちを安定させます。安定すると、周囲が見えてき、他の子を思いやれるのはそれからとなります。

小学校以降、学級崩壊、不登校、ひきこもりなどが社会問題化しています。虐待もあとを絶たず、増加傾向にあります。心の発達が未熟なまま身体だけ成長してしまった子ども達の出している、やるせないSOSに思えます。子ども達の心の安全基地となれるように、子育てを一緒に考えていきましょう。悩みがあれば、いつでもお話しください。

（参考：世界文化社 pripriより上原文 社会保険福祉士）

*佐倉市の美術展に昨年度出展してみましたが、園児の作品の中から数点選び出すのが心苦しいのと、どうみても保育者の手が入っている作品に金賞がついているのを見て、嫌悪感を抱いてしまい、今年度はまた出さないことにしました。

*毎年梨狩りにご協力くださっていた出山梨園様が、梨の栽培を今年より中止するとのこと。幼稚園の梨狩りにご協力くださる梨園が見つからないので、今年度より 梨狩りは中止します。

園長 志田裕美子

<年中組今月の目標>

健康・・・それぞれの種目に意欲を持って取り組む。
人間関係・・・友達の気持ちを考えて行動する。
環境・・・自分の持ち物やロッカーを整理する。
言葉・・・綺麗な言葉遣いで話す。
造形・・・描画、絵手紙、壁面製作
音楽・・・「森のくまさん」「あらかただ」
「おへそ」「やきいもグーチーパー」

その後、「1学期のカッコいいみんなおかえりー！」と私がいうと、「カッコいい自分、すっかり忘れてたよー！」「もう、戻したから大丈夫」と、素直で可愛いみんなを見せてもらえた一コマでした。

来月はいよいよ、お家の方に見えていただける運動会ですね。子どもたちの応援の声に負けにくいくらい、お家の方もたくさん温かい応援をお願いいたします。

長谷川 裕子

<担任から今月のメッセージ>

2学期が始まってから、毎日が運動会です。子どもたちは気合十分で、今日も運動会ある？今日は何するの？と嬉しそうに聞いてくれます。

「これから運動会するから帽子被ろう」と伝えたと、必ず誰かが、「白チーム頑張るぞー！」と大きな声で気合を入れてくれ、そこから、「赤チーム頑張るぞー！」「おー！」と色んな子が代わる代わる気合入れをし、私が何も言わなくても、子どもたちだけで盛り上がり、団結を見せてくれています。

でも、これだけ暑い日が続くと、運動会ごっこをしながらもダラダラしてしまう子も増えてきます。私も気持ちはよーくわかります。でも、時にはけじめも大事！

先日、運動会ごっこの前に、「えみ先生が話をしている時は？」
「目を見て聞く！」
なんてことを話してから行ったはずが、ホールに行ったらお喋りが楽しくなってしまう、けじめが全くなくなってしまう日がありました。

数回注意をしても、全く響く様子が無いので、ついに雷がどかーん！！
いつも笑顔の元気なはな組さんも、さすがに反省モードに。
少し厳しく注意しすぎちゃったかな…と思いながら、体育が終わり、片付けを最後までして子どもたちより少し遅く教室に戻ると、何やらみんなでニヤニヤコソコソ。のぞいてみたら…ピシッと座ってるみんながいるではありませんか！！

「え、、、!?あ、先生、教室間違えたみたい！」
というと
「はな組って書いてあるでしょー」
とニヤニヤと答える子どもたち。
「えー！小学生かと思ったよ！」と驚くと

作戦大成功！！
と、感動したのも束の間、教室を走り回る子どもたち。いつものはな組に一瞬で戻っているところも、はな組らしいなーと思わず笑ってしまいました。

